

クラス	Q105	担当教員	小平 英志
テーマ	パーソナリティと適応、精神的健康		
著書・論文 研究課題等	<p>(著書)『生きがい感:「自分探し、生きる」とは?』 松島公望・橋本広信(編) ようこそ! 青年心理学—若者たちは何処から来て何処へ行くのか, 第9章、2009年、ナカニシヤ出版 他</p> <p>(論文)『高校生における仮想的有能感と学業に関するコミュニケーション』 心理学研究 79巻、2009年、共著/『大学適応の階層性に関する検討—保育系短期大学生を対象に—』 子ども発達学論集、3号、2011年 他</p> <p>(最近の研究課題) 青年期の自己概念、他者軽視傾向、動機づけ、児童期の授業行動</p>		
ゼミナール概要			
キーワード: 性格、人格、パーソナリティ、適応、精神的健康、青年期			
<p>ゼミの目的 元気そうに日々を送っている人でも、上手くいかず悩んだり、苦しんだりすることはたくさんあります。まさに「人生は綱渡り」であり、風が吹き荒む中、我々はバランスを取りながら、何とか綱を渡って生きてきたわけです。では、人はそれぞれどのような方法で、そのバランスを取ろうとするのでしょうか。</p> <p>環境へと適応していく様子には個人差があり、その独特の調整の仕方を決めているのがパーソナリティ(人格、性格)です。パーソナリティは、人を生きやすくし、また生きにくくします。ゼミでは、「適応」と「精神的健康」の2つをキーワードとして掲げ、現代において、人が外的・内的環境に適応し生きていく上で必要なものは何なのかを、パーソナリティの視点から検討を行います。抽象度・自由度の高いテーマですので、まずはひとりひとりの身近な出来事や事例、素朴な疑問から出発し、最終的には学術的研究の形にしていきます。</p> <p>方法 心理学の研究のスタイルや論の展開、証拠の示し方などを理解した上で、実際に自分の興味を基に研究を実施します。実証的な方法(調査法・観察法・面接法・実験法等)を中心に研究を進め、卒業論文に向けたスキル・アップをめざします。同時に論文作成や統計的検定についてもトレーニングをしていきます。</p> <p>授業計画 まずは学術論文の読み方から始める予定です。文献を読み、研究の方法や論文の書き方を理解した後、実際にデータを収集し研究を行います(3年次はグループ研究を予定)。お互いに研究の進捗状況を報告したり、議論したりする機会を設け、多くの構成概念と研究に触れていきます。3年次の終わりには、各自、最も興味のあるテーマへと絞り込んでゆき、卒業研究の企画を行います。4年次にはそれぞれのテーマに従って個人研究を進め、最終的に卒業論文としてまとめていきます。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミのスローガンは「がっつり、どっぷり心理学」です。心理学の証明の方法や説得の仕方は、卒業後にどのような道に進む上でも役立ちます(少なくとも担当教員はそういうふうと考えて教えています)。 ・人の心理について深く考えたり、友達と真面目に議論することができるゼミをめざしています。知的な発想や発見を生む雰囲気を全員で作っていきましょう。心について議論したい人、大歓迎です。 ・3年生と4年生で積極的に交流をしていく予定です。先輩・後輩達の関心や研究内容を知ること、心理学的研究の知識を深めていって欲しいと思います。 			